

interview

代表取締役
中村和明



仕事にもプライベートにも、まっすぐに向き合う代表取締役の中村和明。休日はゴルフやスノーボードを楽しむほか、以前は愛用のカメラを手によく山登りに出かけていたという。創刊号と第2号では明かされなかった社長として忙しく働く中村の学生時代の話や、中村電設株式会社で経験した印象深いエピソードを聞き、その人となりに迫った。

同級生とのつながりが成長の糧に

高校は、大阪府立都島工業高等学校へ通っていた中村。ちょうど理数工学科が新設されたばかりで、「受験してみないか」と進路相談の教師から勧められたのがきっかけだった。校舎は新しかったが、学校自体は100年近く続く伝統校で、文化祭や体育祭は大いに盛り上がったという。

そのときに知り合った友人たちとは今も交流が

あり、特に仲の良い2人の友人とは、数か月に1回の頻度で集まって、食事をしたり旅行に出かけたりしている。1人は東京で起業してエンターテインメント関連の会社を経営しており、もう1人は食品関係の会社に勤めている。お互いの近況を話し合うたびに良い刺激をたくさんもらっており、「自分も頑張ろう」と前向きな気持ちになれるのだ。

仕事の基本を教えてくれた先輩たち

忘れられないのは、30歳のときに担当した現場で、元請け会社の責任者が急に離脱してしまった事件だ。一歩間違えれば、収集のつかない混乱を招くところだった。当時、一緒に作業をしていたのは20歳近くも年の離れた職人肌の先輩社員で、中村はたびたび怒られながら厳しい指導を受けていた。



▲スノーボードの様子

「よく『あれをしろ、これをしろ』と言われていたのですが、アクシデントの際には、その先輩から『次に何をやったらいいのだろうか』と頼られたのです。あまり話す人ではなかったのですが、信頼してくれているのだと感じ、とても嬉しかったのを覚えています」。

このときは、発注者からも工事の進め方や電気設備について、詳しく教えてもらうことができた。二人の背中を間近に見ながら、多くの学びを得たと感じている。

現場以外では堺作業所に勤務していたときに、別の先輩社員から工場の運営に関するさまざまなことを教わった。その先輩も含めて当時の堺作業所にはヘビースモーカーが多く、室内に置いてあったハードディスクのファンに、タバコのヤニが多量に付着してしまう。そのせいでファンは動かなくなり、まったく使い物にならなくなってしまったというハプニングが発生。それ以降、室内は禁煙となった。

従業員の頑張りが会社を支える

社長就任後に起きた出来事でよく覚えているのは、2013年6月に主要な取引先の工場が大きな火事に見舞われたことだ。数か月間にわたって操業がストップしてしまい、中村電設にとっても、会社の存亡に関わる深刻な影響が懸念された。それでも、ここで諦めるわけにはいかないと、従業員一丸と

なって困難な状況を乗り越えていった。

その結果、取引先の会社から感謝状を授与されたほか、発注者からの高い評価と強固な信頼を獲得できたと感じている。従業員一人ひとりが責任感を持って、それぞれの業務に取り組んでくれたおかげであり、中村は改めて感謝の気持ちをすべての従業員に伝えたいと思っている。「あのときは各自がベストを尽くしてくれて、本当にありがとう」と。

ステップ・バイ・ステップで進む

最近、建設会社の倒産の話をよく耳にする。中村は、どれだけ状況が厳しくなっても生き残れる会社を目指して、堅実な経営を行っていくつもりだ。10年後の未来を考えたときに、会社の規模を極端に大きくしていこうとは考えていない。ただ、現状維持で良いと思っているわけではなく、手の届く範囲で少しずつ従業員数を増やしていければ理想的だと考えている。従業員の待遇向上や営業所の新設も視野に入れながら、一步步前進していきたい。

「プライベート面では、10年後にはゴルフがもう少し上手になっていて、子どもが健やかに成長してくれていたら嬉しいですね」。

ときを経た今も仲の良い友人、いろいろなことを教えてくれた先輩、そして頑張ってくれている従業員がいるからこそ、今の自分がある。感謝の気持ちを忘れず、日々のプロセスを確実に積み上げながら、中村の挑戦はこれからも続いていく。



▲ゴルフの様子

意識できている？

5S活動



日頃の仕事の中で、皆さんは「5S」を意識できていますか？
5Sは最初が肝心です！気持ち良く仕事をするためにも、
自身でどれだけ意識できているか見直してみましょう！



不要なものを捨てること



って何？



使いやすく並べて表示をすること

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」の頭文字のSをとったもの。



きれいに掃除をしながら、あわせて点検すること



きれいな状態を維持すること



きれいに使うように習慣づけること

5S心がける理由

生産性向上

5S活動を行うことで、現場が整理整頓され、仕事を進めやすくなります。作業のばらつきもなくなり、作業効率の向上だけでなく、製品の品質向上にも繋がります。不要なものが多く、整頓のルールが徹底されていないような職場では、業務のために必要なものが見つからず、スムーズな進捗が妨げられてしまうことが多くなります。業務で使用するものが、わかりやすく使いやすい所定の位置に常に配備された状態なら、ものを探すために業務が中断するといったことが起こりません。結果として業務効率が向上するのです。

安全性の確保

職場がきちんと整備されていない状態は、単に業務効率が低下するばかりではなく、思わぬ事故などが起こる危険があります。職場の安全性を確保し、労働災害を防ぐのも5S活動の目的の一つであることを認識しておきましょう。

実践方法

一気に片付けるのではなく、意識することを自分の中でルール化し毎日実施していくと、意識せずとも実行できるようになります。

～3定を身につけよう～

定位

置く場所を定める

定品

置くものを定める

定量

置く量を定める

まとめ

5Sのメリット

- 作業生産性が上がる
- 商品の質やサービスの質が向上する
- 商品や情報の管理レベルが上がる
- 作業の安全性が確保される
- 働きやすい環境が整備される
- 従業員のチームワークが向上する
- 企業のイメージが上がる

社員の方に聞いてみました！

なかむら まもる
中村 守さん

普段意識している5Sは？

整理

使用する資材、工具を現場でも整理することによって、どこに何があるかが一目でわかるようになります。そうすることで、探す手間や後片付けの時間を短縮でき、時間を有効に使用できると思います。

提案します！

今後社内で行いたい5S活動

新たな倉庫、置場が必要となる提案なので実現できる可能性は低いです。今ある3か所の資材工具置場を統合することができれば、整理整頓しやすい環境になると思います。

私たちを守るために 第1回

安全・衛生・防災は業務において欠かせないものであり、従業員が快適かつ安心して働ける環境をつくるための基本です。本企画では、これらにまつわる社長の所感を連載。今回は、安全についての基本意識や新たな取り組みの必要性についてお話しいただきました。

中村電設株式会社の従業員並びに協力会社の皆様、日々の安全衛生防災活動へのご協力誠にありがとうございます。

弊社は今期(2024年8月期)で設立42年を迎えることができました。以来、幸いなことに重大災害(休業災害、死亡災害、もしくは不休災害であっても複数人が受傷するような災害)を起こすことなく、ここまで歩んでおります。これはひとえに諸先輩方、従業員の皆様、そして協力会社様の安全活動へのご理解とご協力があったからこそだと思っております。改めて御礼申し上げます。

最初に一言申し上げておきたいことは、安全活動やルールは全て現場で作業している皆様自身のためだということです。基本は「元気に出社して、元気に帰宅」。これを頭の片隅に入れておいていただければ、全ての安全活動に対して納得できるはず。活動がいかにか自分や仲間のためになるかというのを理解し、以下の文章を一読いただきたいと思います。

まずは安全についてですが、弊社がお世話になっている日本製鉄株式会社には「安全6則」というまさしく鉄の掟があります。



- ・可動エリアに入るときは非可動処置を行い、修理札を使用すること
- ・高所作業、開口部作業では、安全帯を使用すること
- ・吊り荷の下には入らず、十分な退避距離をとり、手カギを使用すること
- ・重機やフォークリフト、軌道車には相互確認なしで近づかないこと
- ・酸欠やガス中毒危険エリアでは、検知器を使用すること
- ・電気作業では、電源開放し、検電すること

さらにもう一点、昨今声高に叫ばれている「変化点KY」についてです。

先日、TBM(ツールボックスミーティング)シートの説明とKY(危険予知)ボードの記載方法についてレクチャーしましたが、ご理解いただいているのでしょうか。今までの書き方からガラッと変わってしまい、少々戸惑いを覚えていると推察しますが、次第に慣れてくるでしょう。TBMシートを参考に、左欄に以降2時間の作業手順、中央欄にリスク(〇〇のときに〇〇して〇〇になる)、右欄にその対策を記載するという方法です。そもそも変化点KYが目立つようになったのは、統計上、作業に変化があったときに事故が多い、作業内容に関してのKY

の記述がない、といった背景からになります。KYをしていけば、作業員の方々の意識に残り、災害に至らなかったかもしれませんが、「If」の話になるため断定はできませんが、意識に対して語りかけるようなことが少しでもできていけば、防げる事故や災害は多いと思います。

現在、活動内容のエビデンスとして、毎週設備室に写真や書類の提出が求められています。まずは強制的にということになります。変化点を1日1個見つけ出し、KYボードに書き記す。これを継続することにより、しばらく経つと自然と意識が身につくはず。最初は面倒くさいと感じる点も多々あるかと思いますが、趣旨をご理解いただき、活動にご協力いただければと思います。